

原稿募集中！

編集後記

- ◇今月号もいくつかの依頼稿を核に構成されております。きわめて多忙ななか本誌にご寄稿下さった都城秋穂・許 良基・三宅輝海の各先生方に厚くお礼申し上げます。米国から3件、ニュージーランドから1件と海外からの寄稿が多いのも本号の特徴で、世界各地からの寄稿が更に増えることを期待しております。
- ◇本号の後半には、地質学の歴史に関係した記事を集めてあります。昨年4月号では、都城先生が日本の顕微鏡岩石学の歴史について書いて下さいましたが、同様の課題を今後も積極的に取り上げていく予定で、既に何人かの方に執筆を依頼しております。
- ◇表紙の写真は、日本写真作家協会の高野信幸氏から提供して頂きました。ご協力に厚くお礼申し上げます。高野氏は、いわゆる社会派の写真家で、3月24日から30日まで新宿のニコンサロンで、高瀬川をテーマとした個展が開かれます。
- ◇口絵は2頁とし、昨年訪れたソ連の自然を少し紹介しました。詳しくは別の機会に紹介したいと思っております。
- ◇最近口絵が無い(1月号)少なくなっておりますが(2-4月号は2頁)、これは契約頁数の超過分を調整したため、5月号からは従来の4頁だてが復活する予定です。また、特集が続いたため、そのほかの稿の掲載が遅れ気味になるという傾向も現れ始めており、対策を考えております。5-6月号では、特集記事と一般の記事が共存するという商業誌にはよくあるスタイルを取る予定です。
- ◇筆者が本誌の編集に携わって既に3年が経過しました。この過程は編集体制の再建もしくは刷新という性格を持っておりましたが、多くの人々のご協力のおかげで、何とか軌道に乗りつつあるように思います。印刷過程の合理化も含め色々な問題を残しながらも、筆者の役割は基本的にはもう終わったと思われるので、記録に残すという意味で、近いうちにこの間の経過を1、2書いておきたいと思っております。

副委員長 佐藤典平 記

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎
 副委員長：佐藤典平・磯部一洋
 幹事：宮崎光旗・尾上亨
 委員：滝沢文教・岡村行信・鹿野和彦・山口靖・金沢康夫・佐藤岱生・松本則夫・三田直樹・松浦浩久・渡部芳夫
 事務局：総務部業務課広報係(山口秀樹・斎藤賢二)
 〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所
 地質ニュース編集委員会
 事務局 Tel. 0298-54-3520
 Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

〔訂正〕

1月号30頁右段下から3行目
 328億トン(誤)→32.8億トン(正)

1992年3月号

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙(25×18字)4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行25字とし、行数は20-25行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字として下さい。
5. 図・表・写真は本文とは別に1枚1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを提出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 表紙やグラビアに用いるカラー写真は、プリント版の他に原版のポジ(スライド)を提出して下さい。プリント版のみの場合は、カビネへ六切サイズ(表紙は六切)のものに限ります。
8. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

<地質ニュース編集委員会>

購読者募集中 申し込みは編集委員会へハガキで

地質ニュース	第451号 1992年3月号
1992年3月1日 発行	定価 ¥700 千実費
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林久雄
発行所	株式会社実業公報社 東京都千代田区九段南4の2の12 〒102
	Tel. (03)3265-0951(代表)
	振替口座 東京1-32466
	麹町局私書箱第21号
印刷	奥村印刷株式会社

©1992 Geological Survey of Japan
 ●本誌は東京都の震が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。